

NCNL 図書館だより

No. 16 Mar 4 2005

新潟県中越大震災と図書館

図書館 司書 阿部 昌子

2004年10月23日土曜日17時56分、新潟県中越地震発生時、上越市は震度5弱の揺れを観測し、翌日までに震度5強1回、震度4の余震が4回あった（上越市ホームページによる）。

当館は閉館後であり、書架に耐震工事がしてあったこともあって、被害は約20冊の本が落下した程度であった。

しかし、その後、10月27日に震度5弱、11月8日に震度3の余震が開館時間中にあった。震度5の時は即時に図書館を閉めることにした。利用者は2名のみであり迅速な避難に協力してもらえたが、その日は恐怖が止まらなかった。

地震から数日経つと、県立図書館や県大学図書館協議会を通じて県内各図書館の状況が入ってきた。被災地の図書館はいずれも資料落下・書架転倒等の被害があったが、地震発生直後では図書館の復旧以前に、自治体職員として、また大学職員として勤務先のライフライン復旧にあたっているところが多いようであった。

そんな中、被災しなかった図書館としてなにができるのかと考え、まずは、当館所蔵の災害看護、地震関係の図書を集め、そのリストを作成することにした。当館で所蔵していなかった必要な資料は購入し、各大学・団体発行の非売品は寄贈をお願いした。

図書の次は雑誌論文と考え、国内最大の医学文献データベース作成元である医学中央雑誌刊行会に、データベースの検索結果を当館ホームページに掲載する許可をいただき、それに当館の所蔵状況を付したリストを作成した。

各方面からの協力により、地震発生から16日後の11月8日に、文献リストをホームページに掲載した。12月に入って、上記の文献リストに有用サイト（次頁で紹介）へのリンクも加え、「新

潟県中越大震災」ページを図書館ホームページ上に作成した。今後も随時更新の予定であるので、ぜひご活用いただきたい。

なお、新潟県大学図書館協議会では、災害時の協力マニュアルを定めており、それに基づき複数の大学図書館から加盟館に対して学生の利用受入の要請があった。当館では学外者利用に準じた受入とし、ホームページにその旨掲載した。

今回の地震は突然起きたと言われるが、地震発生後、県内でベストセラーとなった『地震：新潟は安全か？』（※1）によれば、1997年当時、既に長岡で大地震が発生するとの報道がかなりあったらしい。また、2004年は新潟地震からちょうど40年でもあった。図書館ではこうした本や新潟地震の資料などを紹介、展示するなどして利用者の関心を喚起するという仕事もできたのではないかと今になって思われる。

下越地方では新潟県北部地震も10年前に起きており、記憶に新しい。上越地方については、1665年、1751年、1847年とほぼ100年ごとに大きな地震があり、1665年は積雪時の中の地震であることがわかった（『上越市史 普及版』（※2）118,170頁）。

先人の遺産を現代に伝え、今を歴史として未来に伝える責務が図書館にはある。

当館作成のリスト、ホームページが少しでも復興に向けてお役に立てれば幸いである。

（※1）茅原一也／監修 1998年 新潟日報事業社発行 図書館請求記号 地域453.2-C43

*当面、災害看護・地震特集コーナーにあります。

（※2）1991年 上越市発行

図書館請求記号 地域214.132-J59

連載企画 1. 書評

植田正治・鷺田清一／著

『まなざしの記憶—だれかの傍らで—』TBS ブリタニカ 2000 (※1)

講師 渡辺 弘之 (社会学)

ふだん専門書に目を通す機会は多いのですが、その反面好きな本を手にとって読むという機会は減ったように思います。大学図書館との関わりも資料を探すのが中心ですが、ふと手にした本に惹かれました。哲学者の鷺田清一さんと写真家の植田正治さんの組み合わせによる『まなざしの記憶—だれかの傍らで—』という本です。

この本はどこから開いてもかまいません。目次には「顔」「跡」「空」「距離」などの言葉が並びます。なつかしさやせつなさといった人間の感情は、さまざまな記憶や場所と共にあり、時間の流れと共にあります。この本に収められている言葉と写真の数々は、それら“記憶”や“時間”、“場所”といった人間の心象風景を映し出していきます。

鷺田さんは哲学、植田さんは写真とそれぞれ表現の方法論は異なりますが、学問や芸術の枠を超えた、人間に対するまなざしは共通しているように思われます。

20世紀日本を代表する写真家である植田さんは世界からも高い評価を受けましたが、残念なことに2000年7月にこの世を去られました。この本の冒頭の植田さんの写真についての解題(鷺田氏による)は、どの

評論よりも写真家・植田正治の作品の本質を的確に表しています。

また鷺田さんが1999年に出した『「聴く」ことの手—臨床哲学試論—』(TBS ブリタニカ)にも植田さんの写真がフィーチャーされています。『「聴く」ことの手』(※2)では、鷺田さんの専門でもあるメルロー＝ポンティの身体論をベースにしたコミュニケーション論について述べられていますが、『まなざしの記憶』はこの本の延長線上にある作品です。

これらの本に興味を持たれたら、ぜひ植田さんの作品にも目を通してみてください。唯一遺された著作として『植田正治 私の写真作法』(1999年 TBS ブリタニカ)があります。

(※1) ISBN 4-484-00414-3

図書館請求記号 104-U32

(※2) ISBN 4-484-99203-5

図書館請求記号 104-W42

[編集委員会注]この本は、2002年発行の図書館だより No.12でも書評されています。評者の視点の違いをお楽しみください。

震災関係文献掲載のホームページ

新潟県中越大地震は、インターネット普及後、初の大規模震災と言われています。県内の各図書館でも、文献速報などがいち早くホームページに掲載されました。以下にご紹介いたします。

○新潟県立看護大学・短期大学図書館 <http://lib.niigata-cn.ac.jp/>

- ・「災害(地震)看護・地震関係文献リスト」掲載中(随時更新)。
- ・以下のサイトへのリンク

○新潟県立図書館 <http://www.pref-lib.niigata.niigata.jp/>

- ・新潟県図書館等情報ネットワーク構成機関の中越大地震における被害状況を掲載中。
- ・「新潟県中越大地震関係文献速報」掲載中(今後、毎月更新予定)。

○長岡赤十字病院図書室 <http://www.nagaoka.jrc.or.jp/lib/>

- ・「新潟県中越大地震関連文献リスト」掲載中。その他、各種有用サイトへのリンクあり。

○日本災害看護学会 <http://www.jsdn.gr.jp/>

- 「文献・資料案内」あり。

私の図書館の利用法

大学 1年生 海津 美穂

私は本と言っても読むのはマンガ本くらいで、めったに本は読みません。それはまだ本当におもしろいと思える本に出会っていないためかもしれませんが、自主的に本を借りて図書館に行くことをしたことがないかもしれません。そんな私の図書館の利用方法は勉強場所としての利用です。受験勉強を始めた高校3年の頃から図書館を勉強場所として利用し始め、最初は慣れない場でしたが、今では図書館でないと集中して勉強ができないほどのとても落ち着く場となりました。

看護大の図書館は二階に勉強机が並んでいて、勉強場所としての環境が整っています。天気がいいときはそこからは外の風景が眺められるので、私のとても好きな場所にもなっています。図書館は静かで空調が整っていて、適度な照明がされているので、とても居心地が良いです。だから疲れたときは少し居眠りをしてしまうこともあります。これからも、本を読まない私でも図書館を有効に活用していきたいと思います。

本と痴呆(認知)症*

大学 3年生 木田 恵

私は、老年看護学の実習で、痴呆症の82歳の男性の方を受け持たせて頂いた。痴呆症により、自発性が低下しており、表情の変化はほとんど見られず、どのような問いかけにもうなづく程度で、自ら発する言葉はほとんどない。施設に入所されて二年近くたち、入所当時はよく笑い自発語も多く見られたそうだが、痴呆の進行と共に自発性が低下しているようである。

風景や旅行の本に対し興味を示すということだったので、早速、自分が所有している「新潟祭り」という雑誌や韓国やバリ島のガイドブックを

用いてコミュニケーションを図った。するとどうだろう、今まで自ら言葉を発することのなかった方が写真を指差したり、短い言葉を発したり、笑ったりさえしたのだ。

本の威力はすごい。文章や、写真、挿絵から、実際にその場に行かなくても、想像力を引き出し、高齢者に笑顔や言葉を思い出させることができるのだ。今回、この実習を通して、本が痴呆症の方に与えるパワー、可能性というものを知ることができた。これからも、実習の多くの場面で本を活用していきたいと思う。

*一般的な用語や行政用語としての「痴呆」に替わり、「認知症」が最も適当であるという検討結果が、2004年12月26日、厚生労働省より公表されました。本稿はそれ以前に執筆していただいたものです。当時、筆者が既習した用語として「痴呆」を用いたことを申し添えます。

[編集委員会]

図書館から一言：図書館には、勉強・研究のための資料だけではなく、小児看護の実習用の絵本や、読み物、写真集などもあります。ぜひそういった資料も使ってみてください。

ゆっくり休みたいときに

短大 地域看護学専攻 渋谷 香

本と一言で言ってもたくさん種類があります。その中で、私が毎日の生活でうまくいかず落ち込んだ時や自分を見つめ直したくなった時、自分のこれからを考える時に手にしたくなるのが広瀬裕子著『HEART BOOK』(※)です。

この本の内容はいつも自分がやっていること、感じていることが言葉になって書かれています。自分の気持ちが言葉になっていると、普段当たり前前に捉えて、深く考えないことについて、ゆっくりと想いを馳せることができます。そのため、自分の気持ちが表現できない時に代弁してくれた

り、気持ちの整理をしてくれたりするので、何かあっても、もう少し頑張ってみようという気持ちを持たせてくれます。また、この本を読むと、目標が見つかるかもしれません。私はこの本の中の“わたしのできること”の一節に“自分にできることはなにか。あたえられた役目はなにか。”という所を日々模索しています。

きっと落ち込んだ時、自分に迷いがある時に手助けをしてくれる一冊となると思います。

(※) PHP 研究所 2000年発行

新潟県立がんセンター新潟病院における図書館活動のご紹介

新潟県立がんセンター新潟病院 図書室 司書 有田由美子

◎ 病院にも図書館があることをご存知ですか

図書館といっても規模が小さいため、名称は「図書室」とされているところがほとんどです。病院・医療機関の図書室としての機能は医療法第 22 条に、また「医師法に規定する臨床研修省令」中「臨床研修病院の指定の基準」に必要な施設としてあげられています。ほとんどが職員対象の医学関連専門書を扱っていて、「病院図書室」と称されます。当院ではその病院図書室とともに患者図書室を設置し患者用の図書サービスもおこなっていますので、それぞれご紹介します。

◎ がんセンター新潟病院図書室について

当院は診療科 18、医師数 90 人、ベッド数 500 床の病院です。新潟市川岸町にあり、新潟県看護協会のすぐ近くです。図書室の概要は、予算が年間総額 1200 万円(図書費+研究費+その他)、蔵書数は単行書 6,756 冊、購読雑誌 196 誌、司書 1 人となっています。1962 年の開設で 43 年の歴史があります。予算の 70%が雑誌にあてられ、利用も雑誌の方が多くなっています。文献検索は院内 LAN からインターネットで医中誌 Web と J-Dream、PubMed などの利用が可能です。図書室のホームページでは利用案内のほか、所蔵雑誌のリストや検索、和雑誌特集記事一覧とその検索、蔵書検索などもできるようになっています。

(<http://www.niigata-cc.jp/lbsoyo/index.html>)

また、当室は新潟県立病院中央図書室も兼ねています。そのため 15 ある県立病院の職員の方は当室の利用が可能です。新潟県立看護大学・短期大学の学生の皆さんが県職員になった折りは、是非ご利用をお待ちし

ています。

◎ 患者図書室について

患者さんへの図書サービスは図書室司書とボランティアさんの協力でおこなわれています。

・あかね文庫：1994 年に開始された娯楽図書の貸出サービスです。各病棟に本棚が設置され、自由に借りることができます。毎週木曜日の午後はボランティアさんが病室を巡回し貸出をします。提供する本はほとんどが寄贈書です。2004 年は 3,439 人が利用し、10,283 冊の貸出がありました。ボランティアさんは 18 人です。

・あかね文庫お話し会：1996 年から毎週水曜日の午後、小児科病棟で絵本の読み聞かせや語り、手遊びなどをおこなっています。ボランティアさんは 5 人です。

・からだのとしょかん：1997 年に開始され、木曜日を除く平日、午前 10 時から午後 3 時まで開室しています。ボランティアさんは 50 人がかかわっています。

わかりやすい医学・医療情報を提供するのが目的です。図書の他にインターネットの利用も可能です。からだのとしょかんに欲しい情報が無いときは司書に連絡されます。司書はインターネットや文献データベースで検索をし、時には専門書の提供をします。2004 年は 6,300 人が利用し、1,281 冊の貸出がありました。その他に、「院長相談日」「看護相談室」「お薬相談」「栄養相談」など院内にはいろいろな相談コーナーがありますので、連携を取り紹介をしています。

病気の情報は病気になって初めて必要になるものですが、患者さんご家族の方々のお力になれるようスタッフと共に努めていきたいと思っています。

がんセンター『あかね文庫』を利用して

—患者家族の立場で—

講師 小林 恵子 (地域看護学)

3 年ほど前の夏、思いもかけない子どもの入院で、親子共々、病院で鬱々とした毎日を送っていました。特に小児病棟は友人(子ども)の見舞いも制限され、息子はすっかり日常から引き離されてしまったのです。そんなある日、退屈しきった病室に移動文庫と共にボランティアの方たちの爽やかな社会の風が吹き込んできました。さっそく、息子と興味のありそうな本を一緒に探し、何冊か貸していただきました。そのうち息子だけでなく交代で付き添う夫も足繁くあかね文庫に通わせていただき、自分らしいひとときを持つことができましたようです。

◎一般にも開放されている新潟県内看護・医療系図書館リスト

修了・卒業後は、勤務先の病院の図書室もご利用ください。

2005.2現在

図書館名	住所	電話番号	OPAC	貸出	貸出登録条件	開館時間
新潟県立看護大学図書館	上越市新南町240	025-526-1169	○	○	・県内の看護・医療・福祉等に從事する関係者(学生含む)で調査・研究目的の方 ・上越地域に居住・勤務する方で看護・医療・福祉等の限定された目的の方	平日9-20:30 土曜日9:30-16:30
新潟大学附属図書館旭町分館	新潟市旭町通1番町754	025-227-0692	○	○		平日9-21 土日祝日10-17
新潟青陵大学図書館	新潟市水道町1-5939	025-230-7748	○	○	18歳以上(登録制:登録料500円2カ年有効) ※新潟県看護協会会員は会員証提示で無料	平日9-19 土曜日9:30-16:30
新潟県看護協会図書室	新潟市川岸町2-11	025-265-1225	×	○	原則として新潟県看護協会会員	月-土曜日9:30-16:30
新潟県立病院中央図書室(県立がんセンター新潟病院図書室)	新潟市川岸町2-15-3	025-266-5111 (代表)	○	○	新潟県立病院職員 *患者用「からだのとしょかん」も院内にあり	平日8:30-17:15 *月水金10-15
北里大学保健衛生専門学院図書館	南魚沼市黒土新田500	025-779-5062	○	×		平日12:10-13・16:10-19:50 土12:10-14
(医療・福祉系)						
新潟県健康づくり・スポーツ医学センター情報コーナー	新潟市清五郎68	025-287-8808	○	○		火-日曜日9-17
新潟医療福祉大学図書館	新潟市島見町1398	025-257-4503	○	○	新潟医療福祉学会の会員、図書館長が許可した関係機関の方	平日9-19:30 土曜日9-15
新潟薬科大学図書館	新潟市上新栄町5-13-2 新津市東島265-2	025-268-1201 0250-25-5251	○	×		平日9-21:30土9:10-16:30 新津平日のみ9-20
ユニゾンプラザ(新潟県社会福祉協議会)図書情報ルーム	新潟市上所2-2-2新潟ユニゾンプラザ2F	025-281-5520	×	○		火-金曜日9:30-18 土曜日9:30-17

※詳細は各図書室のホームページをご覧になるか、直接お問い合わせください。県立図書館のホームページもしくは当館ホームページにリンクがはってあります。特に大学図書館は、夏季休業期間およびテスト期間中は時間変更になるので必ず事前にご確認ください。

○最寄の公共図書館(『新潟県の図書館』または新潟県立図書館ホームページリンク集参照)

たいていの図書館では、リクエスト制度あり(他館からの取り寄せ含む)。

○新潟県立図書館 新潟市女池南3-1-2 025-284-6001(FAX025-284-6832) <http://www.pref-lib.niigata.niigata.jp/> 火-金9:30-19 土日9:30-17
FAXやE-mailなどでも所蔵資料の複写サービスおよび他館からの文献取り寄せを受付。

◎県外文献複写サービス機関 ※当館では、学外者の方には他館からの文献取り寄せサービスを行っておりません。

機関名	電話番号	FAX番号	申込方法	支払料金・方法など	文献対象
医学中央雑誌刊行会 資料情報課	03-3334-4632	03-3334-5045	FAX	後払い。基本料金1件500円+1頁30円。平日15時半頃までの申込で当日中発送。	医学中央雑誌掲載文献(1989年以降発行)
日本看護協会図書室看護研修センター図書室	0424-92-7468	0424-92-7090	郵送・FAX 最初に要問合	日本看護協会会員のみ。前払い。一律料金(文献1件500円+送料500円)を郵便振込。	『最新看護索引』掲載文献
タケダメディカル出版部文献集係	044-976-1881(代表)		郵送	前払い。1頁30円+送料を郵便為替で送付。「文献集」のコードナンバーを申込書に記入。	『日本看護関係文献集』掲載文献
科学技術振興機構(JST) http://www.jst.go.jp/	0120-004381 (フリーダイヤル)		ホームページ	後払い。基本料金838円+1頁9円。JST所蔵資料以外は外部手配料金と著作権料も必要。	
国立国会図書館 http://opac.ndl.go.jp/	0774-98-1312		ホームページ 要利用登録	後払い。1枚24円(A4・B5)+梱包料157円+送料。	NDL-OPAC収載文献

<新規購入雑誌(2005年1月~)>

(洋雑誌)

American Journal of Critical Care
 British Journal of Midwifery
 British Journal of Nursing
 Health Education Journal
 Heart & Lung
 Journal of Neuroscience Nursing
 Nursing
 Nursing Administration Quarterly
 Nursing Philosophy
 Oncology Nursing Forum
 Perspectives in Psychiatric Care
 Public Health Nursing
 Qualitative Health Research
 Research and Theory for Nursing Practice
 Scientific American
 World Health Organization technical report series

(和雑誌)

緩和ケア(「がん看護」から改題)
 現代思想
 ターミナルケア
 日本災害看護学会誌

<し行>

島根県立看護短期大学
 上越市
 上越市史編さん室
 上越南警察署
 上越老人福祉協会
 杉田収
 全国保健師長会新潟県支部
 <た行>
 田島桂子
 高橋みや子(山形大学医学部看護学科)
 千葉県立衛生短期大学
 千葉大学
 天理大学
 東海大学医学部在宅医療科学講座
 東京大学大学教育研究センター
 東京電力
 東京都立大学
 富川孝子

<な行>

中島紀恵子
 名古屋大学高等教育研究センター
 新潟県
 新潟県看護協会
 新潟県教育庁
 新潟県教育庁総務課
 新潟県県民生活・環境部男女平等社会推進課
 新潟県県民生活・環境部防災局原子力安全対策課
 新潟県総合政策部国際交流課
 新潟県総合政策部統計課
 新潟県福祉保健部
 新潟県立図書館
 新潟大学
 日本看護協会出版会
 日本災害看護学会
 日本図書館協会

<は行>

ベネッセ
 母子愛育会
 <ま行>
 丸山美知子(厚生労働省看護研修研究センター)
 三重県
 南裕子(兵庫県立大学)
 メディア教育開発センター
 文部科学省
 文部科学省生涯学習政策局
 文部科学省生涯学習政策局地域づくり支援室

<や行>

安田記念医学財団
 山形大学医学部看護学科

<わ行>

若林佳史(大妻女子大学社会情報学部)
 <英数>
 6.5シンポジウム実行委員会
 TECOM

<新規受入寄贈紀要・雑誌>

<紀要>

異文化看護ニューズレター/長野県看護大学
 関西鍼灸大学紀要
 学位研究:学位授与機構研究紀要
 研究論集/浜松学院大学・浜松学院大学短期大学部
 長岡造形大学研究紀要
 博士学位論文内容の要旨および審査結果の要旨/高知女子大学
 博士学位論文内容の要旨および審査の結果の要旨/図書館情報学大学院
 博士学位論文内容の要旨及び審査の結果の要旨/兵庫県立看護大学
 弘前大学大学院地域社会研究科教育研究報告
 兵庫県立看護大学附置研究所推進センター研究報告集
 保健科学研究誌/熊本保健科学大学
 宮崎公立大学人文学部紀要

<雑誌>

家族ケア
 甲信ICUセミナー
 →[改題]甲信救急集中治療研究
 日本性科学会雑誌(1号のみ)

寄贈者名簿(2004年9月~12月受入分)

大変ありがとうございました。

(寄贈者名敬称略)

<あ行>

石川県立看護大学
 岡村典子
 小熊写真館
 落合眞喜子
 <か行>
 加城貴美子
 北川公子
 九州看護福祉大学
 京極高宣

群馬県立医療短期大学
 慶応義塾大学看護医療政策学生会
 国試の麗人の会
 国立公文書館
 国立国会図書館関西館
 国立情報学研究所

<本学教員著作 2004.4.1~寄贈>

寄贈者	書名	出版社	出版年
杉田 収教授	化学	ヌーヴェルヒロカワ	2004/11
山本淳子講師	小学校の英語	三省堂	2004/5
〃	実践的看護英語の基礎	ピアソン・エデュケーション	2004/2
〃	ホームステイで困らない英会話	三修社	2003/7

図書館だより 第16号(2005年3月4日発行)

編集:新潟県立看護大学・短期大学図書委員会

発行:新潟県立看護大学図書館・短期大学図書館

〒943-0147上越市新南町240番地 TEL(025)-526-1169(直通)

E-mail tosoyo@niigata-cn.ac.jp URL http://lib.niigata-cn.ac.jp/